

研究・調査報告書

報告書番号 47	担当 独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Relationship of light to moderate alcohol consumption and risk of hypertension in Japanese male office workers. 日本人男性会社員における軽い、適度なアルコール摂取と高血圧の関連	
執筆者 Nakanishi N, Makino K, Nishina K, Suzuki K, Tatara K	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Alcohol Clin Exp Res. 2002 26(7):988-94.	
キーワード アルコール、収縮期血圧、拡張期血圧	
要 旨 <p> アルコール摂取と高血圧の間の密接な関連は良く知られている。しかし軽い又は適度なアルコール摂取が血圧に与える効果については明らかではない。本研究では、適度なアルコール摂取と高血圧の関連を明らかにするために、23-59歳の5275人の日本人男性会社員を対象とした。被験者はアルコールを摂取しない人と一般的な飲酒者（一日のエタノール摂取量が12g以下、12-22、23-45、46g以上）である。血圧は1996-2000年の年一回の健康診断日に測定した。3784人が正常血圧で（収縮期圧<140 mm Hg, 拡張期圧<90 mm Hg）4年間、異常は観察されない。収縮期圧>140 mm Hg, 拡張期圧>90 mm Hgの人は高血圧の人として分類した。 </p> <p> その結果、高血圧の予備軍をコントロールすると血圧レベルや高血圧の兆候はアルコールを摂取しない人で3つの年齢層（23-35、36-47、45-59歳）すべてにおいてもっとも低く、アルコールの摂取量が増えるにつれて量依存的に増加した。一日23g以上摂取する飲酒者で23-35歳の人、収縮期血圧、拡張期血圧や高血圧の兆候がある人は、全く飲酒しない人に比べて有意に高くなった。36-59歳層で全く飲酒しない人に比べてアルコールを摂取する人（一日の摂取量に関係なく）で血圧レベルが有意に高く、収縮期血圧や高血圧の兆候は12g以上摂取する人で有意に高くなった。 </p> <p> 以上の結果から、軽いまたは適度な飲酒は若い又は中年の日本人男性両方において血圧レベルに重要な影響を与えることが示唆された。 </p>	